

おたふくかぜワクチン 2回目接種のお勧め

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）はおたふくかぜウイルスによる感染症です。2~3 週間の潜伏期の後に両方（または片方）の耳下腺が腫れます。発熱、痛みを伴うこともあります。多くは1週間ぐらいで治りますが、危険な合併症を伴うこともあります。



無菌性髄膜炎：約 50 人に 1 人の割合で起こります。高熱、嘔吐、強い頭痛がみられます。

多くは 1~2 週間ほどで治ります。

脳炎： 毎年約 30 人に起こっていて、高熱、頭痛の他、けいれん、意識障害などがみられます。障害が残ったり死亡したりすることがあります。

精巣炎・卵巣炎：思春期以降にかかると起こることがあります。精巣炎の場合、精巣の萎縮を伴って精子数が少なくなることがあります。

感音性難聴：一生治らない重度の難聴になることがあります。約 1000 人に 1 人の割合で起こり、年間約 700 人がかかっていると推測されます。学童期、子育て世代に多いことがわかっています。

日本では任意接種となっていますが、多くの国では 2 回の定期接種になっています。

1 回の接種では十分抗体が上昇しない場合もあり、また 1 回目の接種で上がった抗体も年数とともに下がってくるため、予防効果を確実にするためには 2 回目接種をお勧めします。

1 歳過ぎに 1 回目を接種し、2 回目は MR2 期と同時期（年長の時期）に行うことを日本小児科学会は推奨しています。（名古屋市の方は 1 回目は年長まで半額助成が利用できます）2 回目接種については名古屋市の方も助成がないため、5,500 円+税です。

三種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風）ワクチン（DPT）、不活化ポリオワクチン追加接種のお勧め

最近の研究によると、0~1 歳の時に 4 種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・不活化ポリオ）ワクチンを初回 3 回+追加 1 回接種している方も 6 歳ぐらいになると百日咳の抗体、及びポリオの抗体が下がってきていることがわかってきました。

多くの国では、4~6 歳でこれらの追加ワクチンを接種しています。

日本小児科学会でも、年長の時期に三種混合ワクチン（DPT）と不活化ポリオワクチンの追加接種を推奨しています。

（現在、4 種混合ワクチンを 5 回接種した経験が少ないため、安全性を考慮し、三種混合ワクチン（DPT）と不活化ポリオワクチンの接種を行います）

三種混合ワクチン（DPT） 4,000 円+税

不活化ポリオワクチン 8,000 円+税

ご質問がありましたら、当センター スタッフにお問い合わせください。

だいでうクリニック 予防接種センター